

1 概要

市制100周年を機に、本市の魅力ある財産のひとつである地域教育のさらなる活性化を目指し、仲間集めに關する課題の整理と解決に向けたノウハウの構築に向けた課題の整理等を行いました。

2 課題の整理

全体像が見えない

具体的な役割や活動量が見えないと、不安感や警戒感から、躊躇されやすい。

役員や活動量の負担

責任ある役員となることや恒常的な活動への抵抗感から、はじめから構成員として活動は、ハードルが高い。

興味関心の差

関心事の内容違いや関心度の差がある中で、みんなに同じ活動を強いると軋轢が生じやすい。

3 解決の方向性

緩やかな「関わりしろ」を作る

さまざまな関わり方ができるように、活動内容に合わせた「関わりしろ」を用意し、関係人口の拡大を図る。

4 ノウハウ

楽しさで裾野を広げる

「楽しい」と「関わりたい」は比例する

【イベント当日のボランティアを募る】

- ポイント① 協力してもらいたい**具体的な内容**を明記
- ポイント② 協力してもらう**時間を短く**区切る
- ポイント③ ボランティアも**楽しめる内容**を頼む

柔軟なメンバー構成

「みんな同一」ではなく、「みんな対等」を目指す

【検討内容に合わせて、メンバーを変える】

- ポイント① 子どもを取り巻く課題などの**大きなテーマは**、テーマに関連する**幅広いメンバー**で検討
- ポイント② **組織の方向性**や目的は、**構成員全員**で話し合い
- ポイント③ **個別企画**は、同じ関心を持つ**少人数**の検討からスタートして、徐々に仲間を巻き込む

他の活動と合同実施

既存取組を「やらなければ」でなく、「やりたい」取組をできる範囲で！

【「この指とまれ！」で主体的に関わる人を集める】

- ポイント① 組織全体ではなく、**企画単位の賛同者**を募る
- ポイント② 企画の1ブースを「**まるごとおまかせ**」して、賛同団体の目的も達成できる形で連携
- ポイント③ 部分的に**専門団体に企画を依頼**するなどし、その分、自分達の“強み”を活かせる部分に注力



【イベント当日のボランティア】

～校庭遊具を使ったアスレチックの見守りサポート～

子どもの参加者募集にあわせて募集。30分単位で子どもの見守りを依頼。参加する子どもの保護者にとっては、イベント中の隙間時間で協力できる役割のため負担感が少ない。イベント後に、お礼とあわせて、趣旨や成果を伝えることで、活動を知っている人を増やし、仲間集めの土壌を作る。

【イベント当日のボランティア】

～子どもと鬼ごっこで一緒に遊ぶ大人～

参加者募集時にあわせて募集。午後の3時間程度で「逃走中」のハンター役を依頼。子どもと一緒に楽しむ活動のため、関心のある方も一定数存在。

直接、子どもたちの笑顔にふれる活動を体験できるため、将来的に一緒に活動する仲間になる可能性も高い。

【検討内容に合わせて、メンバー構成】

～「まちの学活」で熟議と新規活動の立ち上げ～

地域教育会議の構成員以外にも声をかけて、子どもたちや地域活動について、自由に話す会を開催。その中で、こんな企画をやってみたいという話がでたら、関心を持った数人が中心になって企画を検討。

企画を進める中で、仲間を巻き込みながら実施を目指す。



【検討内容に合わせて、メンバー構成】

～学校との調整～



校庭を借りて放課後等の体験活動イベントをする際に、学校は夜間の会議などに参加せず、コーディネーターが日中に調整事項の整理や、鍵や物品の借用して地域の力で開催。

目的や企画の検討に注力できるように、実務的な部分の省力化に活用ください

【「この指とまれ」で協力者募集】

～主催イベントへの相乗り提案～

子ども会に投げかけて、公園で行うイベントへの相乗りを提案。子ども会としても、単体でイベントを行うより効果的で、広報活動や出店による活動費用を集められるというメリットがあり、当日に食べ物の出店を実施。

出店に関しては地域教育会議では関与せず、参加する子ども会にお願いすることで、双方に調整の負担なく実現。

【「この指とまれ」で協力者募集】

～野球やサッカーの体験コーナーの実施～

イベントの1企画として、施設開放団体に依頼。団体としては、会員募集の契機となるというメリットがあり、実現。時間と場所だけ調整し、企画運営は団体に依頼。



【お役立ちフォーム】

市制100周年を機にNPOの支援を受けて実施した「野遊びフェス」の際に使ったデータを共有できます！

項目	データ名	形式
企画立案	・ イベント計画書 ・ 実施までの流れと実施項目	Excel
広報	・ チラシフォーマット ・ 個人情報取得文言 ・ 参加申し込みフォーム	PowerPoint Word Excel
イベント	・ イベント企画資料・説明資料一式 ・ 安全管理マニュアル ・ 緊急時対応フロー ・ 火気使用のガイドライン	PowerPoint
仲間集め	・ サポーター募集チラシ ・ サポーター向けレクチャー資料	PowerPoint

1 開催目的

地域学校協働活動を推進するために、地域の緩やかなネットワークづくりを目的として、年1回以上を目安に開催する。



2 開催スタイル

情報共有型

- 【ねらい】 地域活動同士の情報交換を目指す。
- 【対象】 地域で活動する団体や個人を幅広く募集
※地域教育会議の構成員に限らず、幅広い地域人材が集まる
- 【概要】 それぞれの活動理念や活動内容を紹介し合う。あわせて、参加者相互の連絡体制構築を促す。
- 【その他】 ・複数回実施すると、既知情報になってしまう。
・内容が薄くなる傾向があり、参加者に対する価値づけが必要。
・地域教育コーディネーターが参加する場合、学校の参加がなくても可。

テーマ型

- 【ねらい】 学校運営協議会等の情報をもとにしたテーマで話し合い、各活動の改善や新規活動の機運となることを目指す。
- 【対象】 テーマに関連する団体や個人に声かけ
※地域教育会議の構成員に限らず、興味関心のある人が集まる
- 【概要】 学校の教育ビジョンをスタートとして、地域でできそうなことなどを話し合う。
- 【その他】 ・地域教育コーディネーターが参加する場合、学校の参加がなくても可。
※学校支援活動がテーマの場合は、学校も参加

すぐに活動に結びつく必要なし

3 開催イメージ

情

【情報共有と大人の体験活動】

各活動の情報交換とあわせて、パラスポーツの「ボッチャ」体験も実施。
インクルーシブ教育について知るだけでなく、参加者相互の距離感を縮めるとともに、共通体験が活動同士の連携に発展することも視野に入れて行う。



※必要に応じて団体同士で協力し合えたり、今後テーマ型ネットワーク会議や新規企画などの際に声をかける団体を把握できたりすることが、長期的狙い。

テ

【キャリア在り方生き方教育をテーマに話し合い】

将来の社会の一員として自立して生きていける能力を育む教育課程をもとに、地域だからこそできる体験機会などについて、話し合う。
初回は広く話し合いながら、そこで盛り上がった個別テーマ（コミュニケーション能力や経済活動体験など）が出たら、次回はテーマを絞って開催。
ここでのアイデアを各活動に活かしたり、「この指とまれ」で新しい活動グループを作ったりしながら、中長期的な実現を目指す。



テ

【食育をテーマにした話し合い】

調理実習の授業で、食材の購入から行う調理までを行う計画への支援相談を受けての話し合い。
授業への協力者を募る方法や、関連した地域活動の情報の共有、新たな地域活動のアイデアなどを話し合う。
個別テーマであるため、参加者数は少なくても可。



(参考) アンケート調査結果

【調査方法】 インターネット調査

【調査期間】 8 / 22 ~ 9 / 12

【調査対象】 各中学校区地域教育会議

【回答件数】 30 / 51

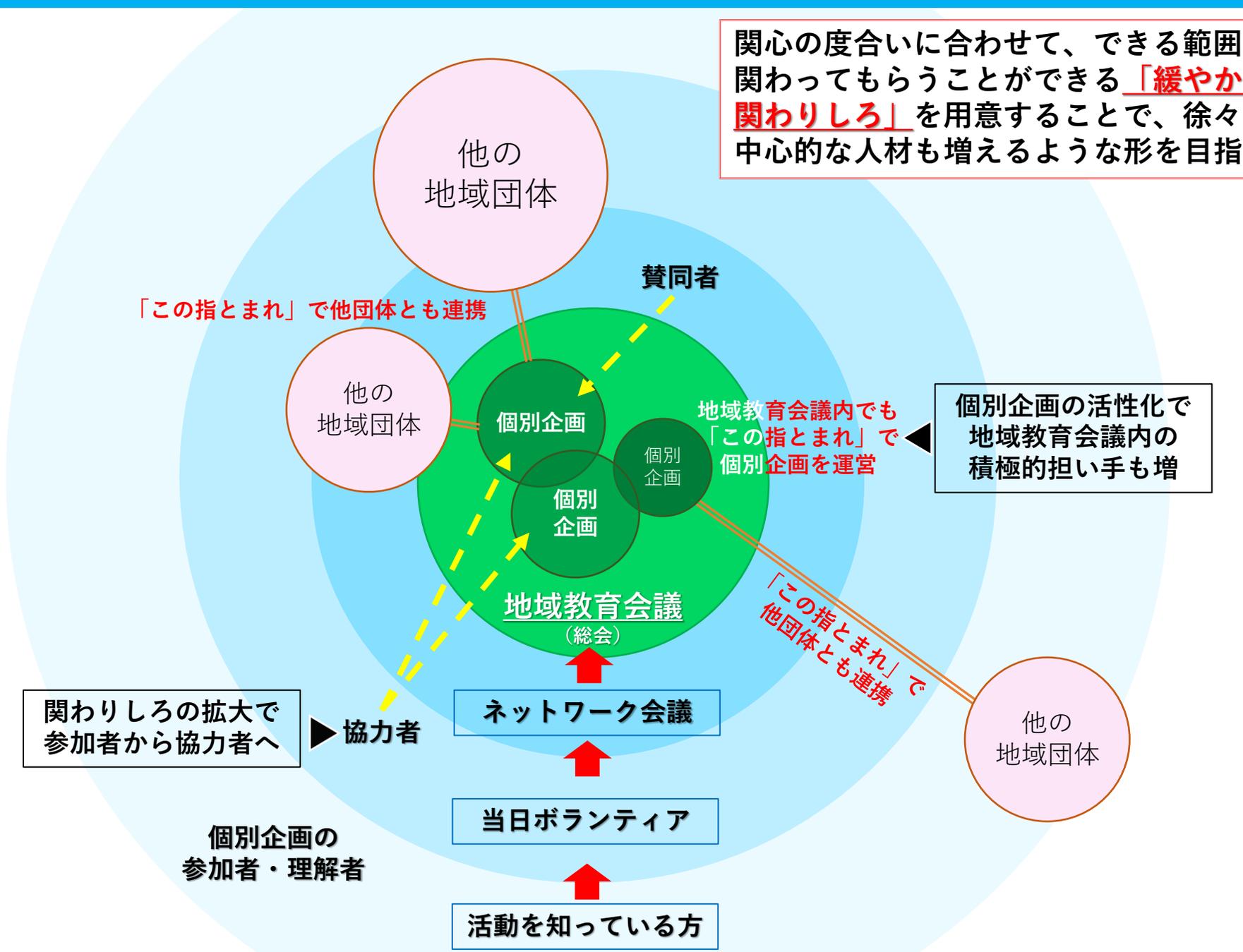
多くの地域教育会議で、「仲間集め」が課題になっています。この課題の解決を図るため、次のような取組を行っている地域がありますが、みなさんの地域でもすでに取り組んでいるものやこれから取り組みたいと思っているものがありましたら、該当するものをすべて教えてください。

仲間集めの工夫	取り組んでいるもの 取り組みたいもの
町内会やPTA、その他の地域団体が行う活動と合同で活動を行うなど、他団体とのゆるやかな協力体制を構築 (PTA活動の協力者を地域教育会議で募集、町内会のイベントと合同実施など)	22 / 30
1日だけでも関わられるような参画形態を設けるなどの「関わりしろ」の拡大 (活動ごとにボランティアを募る仕組みなど)	16 / 30
住民委員になれる条件の緩和 (推薦人数の見直しなど)	12 / 30
既存の取組にこだわらず、構成員の自由なアイデアから活動内容や協力者を検討 (企画案が出されたら「この指とまれ」で、興味のある構成員が集まって活動を実施するなど)	9 / 30
活動内容や検討内容によって、集まるメンバーを変えるなど、ゆるやかな運営体制を構築	9 / 30
特にない	3 / 30

※未回答 1

仲間集めのイメージ

関心の度合いに合わせて、できる範囲で関わってもらうことができる「**緩やかな関わりしろ**」を用意することで、徐々に中心的な人材も増えるような形を目指す。



個別企画の活性化で地域教育会議内の積極的担い手も増

関わりしろの拡大で参加者から協力者へ

個別企画の参加者・理解者